

平成29年度 第2回 第2期健康横浜21中間評価検討部会 議事録	
日 時	平成29年8月22日（火）19時～21時
開催場所	市庁舎5階 関係機関執務室
出席者	第2期健康横浜21中間評価検討部会委員 6名（資料1）
議題	<p>1 挨拶</p> <p>2 委員紹介</p> <p>3 (1) 中間評価の検討経過と主な変更点 <資料2・3> 資料2・3について事務局より説明</p> <p>(2) 世代別の評価結果について(骨子案を中心に)<資料4・参考資料> 資料4・参考資料について事務局より説明</p>
主な意見等	<p>【資料4】 1 評価の方法について</p> <p>(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)</p> <p>今回は、主要指標の進捗と「育ち・学びの世代」に関する中間評価について検討した。今回は、全体をとおして議論をすすめていきたい。</p> <p>ご説明あった<資料4・参考資料>について眺めながらご意見頂きたい。欠けている視点はないか、市民や団体と共有できる内容になっているか。今後の方向性で追加すべき点はあるか、そのほか取組に関するご意見いただき、わかりやすいものにしていきたい。まずは「育ち・学びの世代」はいかがか。</p> <p>それでは、食はいかがか。3食しっかり食べる行動目標があり、モニタリング指標がいくつか。評価としてはおおむね順調、ときている。</p> <p>(神奈川産業保健総合支援センター 渡辺委員)</p> <p>質問だが、社会環境の給食施設の部分で、健康に配慮した給食を提供している保育所及び幼稚園給食施設については、数字をみるとかなり低いようだが、大部分が献立に配慮していないということか？</p> <p>(事務局)</p> <p>給食施設から提出される栄養管理報告書でみている。その中の調査項目で、各区が提出した報告書でみているが、他と比べて極端に低いわけではない。</p> <p>(神奈川産業保健総合支援センター 渡辺委員)</p> <p>実際は献立等、配慮しているのではないか？</p> <p>(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)</p> <p>評価のところ一文付け加えたほうが良いか。</p> <p>(事務局)</p>

各区の栄養士が保育園・幼稚園へ聞いている。モニタリング項目なので目標値はないが、3割で改善傾向か。改善の余地はあるということなので、評価に付け加えていく。公立は市の栄養士が献立考えているが、民間でもある程度の大きさのところでは栄養士が考えているはず。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

データはこれで良いが、説明ができる取組が入ってくるといい。栄養士が栄養指導を行っている等。

(神奈川産業保健総合支援センター 渡辺委員)

モニタリング項目なので目標値には出てこないか。

(事務局)

市民意見募集には載らないが、最終的な報告書には載ってくる。取組と合わせて記載していきたい。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

主観的な指標にもなってくるということか。その他はいかがか。

(神奈川県栄養士会 長谷川委員)

子どもの給食の調査については、直近のデータがないということか。

(事務局)

調査年の平成26年度が最新のデータになる。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

では歯・口腔部分にいきたい。ここは意見募集の項目から外れるということか。

(事務局)

ライフステージごとの評価のところでは出てくる。

(横浜市歯科医師会 堀元委員)

取組状況振り返りの障害企画課のコメントは、指標とは関係ないものか。

(事務局)

指標ではなく、このシートはそれぞれ所管する課で実施した取組について報告いただいている。

(横浜市歯科医師会 堀元委員)

評価のまとめとして、地域差があることや、第1子と第2子以降の違いは早い段階から砂糖等を摂取してしまうこと等があるので、このような結果になっているのかと思う。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

では、喫煙・飲酒はいかがか。母子保健事業のほうですでに様々取り組んでいるのでは。両親教室等ですでに強調されていると思うので、もう少し書き込んで良いと思われるが。

(事務局)

両親教室や乳幼児健診等で情報提供したり、啓発も区のほうで様々行っている。コラボと記載しているが、もう少し記載したい。

(横浜市薬剤師会 高堂委員)

薬剤師会では、教育委員会と一緒に薬物乱用防止についての調査を2年前に実施。今年度はアルコールについて教材をコラボして作っている。そのあとに喫煙をやる予定で、DVD作成途中。来年度位にはできる予定で、学校保健会の体育の授業の中等で、教育していく。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

ここでは主に市内の活動を記載しているが、市内以外の取組は？

(事務局)

今後の第1回の推進会議で入れていただき、総合して最終的に仕上げていく予定。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

禁煙・飲酒というくくりだが、指標として禁煙のみ載っているが良いか？

(事務局)

市では子どもに関しては指標が喫煙のみとなっている。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

では、運動についてはいかがか。

(横浜市歯科医師会 堀元委員)

子どもロコモの健診が指摘されている。実際に猫背や顎が前に出て口呼吸になっている等、体幹がしっかりしておらず、何かしら運動器チェックが引

っかかっている子どもが4～5割と言われている。どこかトピック的に教育委員会の指標と比べてどうか知りたいが。

(事務局)

健診が始まったばかりで、家庭で保護者がチェックしている状況と聞いている。データが出そろったら載せていきたいと思う。

(神奈川産業保健総合支援センター 渡辺委員)

運動・スポーツは体育の時間とは違うものか？

(事務局)

文科省の全国体力運動能力調査は定義があり、横浜市も同等のものを実施しているの、授業の時間を含む、含まないを揃えているはず。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

休養・睡眠はいかがか。

(神奈川産業保健総合支援センター 渡辺委員)

戻って質問だが、子どもの受動喫煙については、親の喫煙率を聞いていると思うが、育ち・学びの親の世代の喫煙率が高いように見える。

(事務局)

国民生活基礎調査では横浜市も喫煙率20%前後で推移している。未成年と同居するという形の質問で聞いている。

(神奈川産業保健総合支援センター 渡辺委員)

やはり意外とこの世代の割合は高いということか。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

では、育ち・学びの世代をみてきたが、総合的にご意見いかがか。

(神奈川産業保健総合支援センター 渡辺委員)

Bはおおむね順調ということか。

(事務局)

Bで取組がきちんとされていればおおむね順調とした。Bでも取組が進んでいないときはやや遅れとしている。休養・こころはやや遅れとしている。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

休養の部分で取組が進んでいないので「やや遅れ」という評価であれば、取組が不十分、もう少し取り組むべき等の記載をしてはどうか。

(事務局)

そのようにしたい。

(横浜市薬剤師会 高堂委員)

睡眠の小学校5年生の割合はあるが、中学生のほうが睡眠は悪いように思う。中学生の指標は作らないか？

(事務局)

策定時には小学生を基本にしており、中学生の指標をとっていない。ただし、この5年間でスマホが普及してきた等の状況があるので、コラム等に入れられたらと思っている。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

中間評価から指標が新たに入る可能性はあるか。

(事務局)

調査自体があるか、まず確認が必要だが、そういったところを含めて今後の方向性に入れたい。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

次に、働き・子育て世代に移りたい。運動はどうか。1日の歩数、20～64歳の男性は変化なしで女性は悪化傾向。高齢期では改善している。働き・子育て世代の部分なので、20～64歳のみをみるということか。

(事務局)

その通り。

(横浜市医師会 渡辺会長)

20～64歳では年齢に幅があるが、分けられるか？

(事務局)

歩数については国民健康・栄養調査を用いており、現状として母数が少ないため3年分を合算している。性年代別に分けるとさらに少なくなってしまう。市民意識調査ならもう少し分けられるので、運動の習慣を採用しようかと思っている。母数が多ければ、男女差や年齢別でみることができる。傾向として、若い世代は男性の数値が良いが、定年以降は女性が上がってくる。

(横浜市医師会 渡辺会長)

仕事を辞める等影響してくるか。nが多いと分かりやすくなる。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

若い世代は託児等が必要になってくる。

(事務局)

市民意識調査では具体的に歩数まで聞いていない。聞いているのが国民健康・栄養調査なので、提示している。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

次に、食生活はいかがか。

(神奈川県栄養士会 長谷川委員)

女性が悪化している理由を知りたい。意識が高いような気がしていたが。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

外食時にバランスを気にする等女性の悪化傾向があるが、骨子案で「バランス良く食べる」を指標に挙げると数値変化Aになってしまう。モニタリング項目の結果と違う気がするので、指標に野菜、塩分を持ってくると男女とも数値変化Bになって取り組まねばいけないようになってくるが。

(神奈川産業保健総合支援センター 渡辺委員)

野菜摂取量は多くなっているが、有意差はなかったということか？

(事務局)

なかったということ。

(横浜市医師会 渡辺会長)

食事の食べる時間は何分間が普通なのか。食事の内容にもよる。おかずの種類がたくさんあるもの、ひとつにまとまっているもので時間が違う。

(事務局)

人と比較してあなたはどう思うか等、時間は主観的なものになってくる。ここの指標は「バランス良く食べる」ととると違う答えを導き出すものになってしまうので、Bがとれるものに変更したい。

(神奈川県栄養士会 長谷川委員)

そのほうが良いと思う。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

この世代は育児、家庭教育等の時期でもあることを考えると重要かと。

(神奈川産業保健総合支援センター 渡辺委員)

朝食は「毎日とる」「ほとんど毎日食べる」と同じような指標がたくさんあるが？

(事務局)

朝食に関してはあらゆる色んな調査を掲載している。策定時はとにかく色々なデータを入れたので、もう少し絞り込みをしたい。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

続いて、歯・口腔はいかがか。

(横浜市歯科医師会 堀元委員)

過去1年間で歯科健診を受けた者の割合は、歯科医院を受診した数も入っているのでは。違う調査で、過去1年間で定期的に歯周病の治療をした者では25%位だった。市内の健診率は決して高いものではないので、虫歯等の診療行動も入っているのでは。一方で進行した歯周炎は増加。健診も増えているのに歯周炎も増えており、矛盾しているような結果になっている。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

アスタリスクの、40代の歯周炎を有する者の割合は増加しているが、治療中の者を対象としているため、統計上の偏りを考慮する必要があるという意味は？

(事務局)

上は歯科健診を受けた県の調査。下の参考は市民意識調査で、歯科受診をした割合。

調査方法として、23年度はCPI、28年度からはWHOの基準が変更し、CPIモディファイという新しい方法を使っている。歯周炎は上昇傾向であるが、同じ調査の形ではないということで、国も県も23年度と28年度は比較していない。8月のあたりに県の調査が出ているので、県はH28単体の数字だけ提示すること。

県の歯科保健実態調査は定期健診、集団健診、歯磨き等の指導、フッ素塗布、歯石除去、虫歯治療等の各項目を聞いており、横浜市は定期、集団健診合わせて53.9%となっている。

(横浜市歯科医師会 堀元委員)

過去1年間歯科医院を受診したことがあるかで70%位だったが、それとほぼ同じだった。ヘルスプロモーションを考えると、行動目標なので、自ら定期的にという意味合いで質問内容を検討しては。

(事務局)

今回の市民意識調査では、質問項目に「受診ではなく」という項目を加えたい。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

睡眠についてはいかがか。

(神奈川産業保健総合支援センター 渡辺委員)

過重労働が問題にもなっており、長時間労働で睡眠時間が減るので、国も改善しようとしている状況。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

禁煙についてはどうか。数値変化Bだが、職場や飲食店ではA。職場でも環境づくりに取り組んでいる等と評価するコメントを入れては。

(事務局)

労働安全衛生法も変わり、職場で取組が始まっている。公共的な施設は禁煙が進んでいるはずだが、市民の目が厳しくなっている表れでもあるか。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

次に、がん検診はどうか。目標値達成しているが、全国と比べるとどうか。

(事務局)

全国的に見て良いほう。子宮がん・乳がん検診の50%達成はなかなかない。

(横浜市歯科医師会 堀元委員)

目標達成されている中でも、AとBで数値変化が違う。たとえば稔りの世代のロコモ認知率は目標が80%だが、20%でAになっている。目標値が達成された、というものを目立たせては。

(事務局)

骨子案では達成したものに星印をつけている。

(神奈川県産業保健総合支援センター 渡辺委員)

参考値とはどこのデータか。肺がんは数値が全然違うが。

(事務局)

参考値は市民意識調査。調査によって多少のバイアスがあるのでは。がん検診の数値は国と比較できる国民生活基礎調査を用いている。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

特定健診については、改善傾向はあるが有意差が出ていない。

(事務局)

こちらのほうは国保のデータヘルス計画で立てていく。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

続いて、稔りの世代で、歯・口腔はどうか。改善しているように見えるが数値変化はBか。

(事務局)

母数が少なく有意差がない。80歳以上はかなり限定的になる。

(神奈川県産業保健総合支援センター 渡辺委員)

これだけ上昇しているなら改善傾向としてはどうか。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

11%上昇しているがBか。「60歳代でなんでも噛んで食べることができる」を持ってきては。

(横浜市歯科医師会 堀元委員)

Aにしても良いと思う。国の歯科保健実態調査でも改善している。

(事務局)

8020があったので指標として持ってきた。数値変化としてA、Bにしているだけで、あくまで単純に数値がどうだったかということになる。最終的な評価は、こういった会議で決めていただく。

「60代でなんでも噛んで食べることができる」に変更するとA、A'になるため、こちらに変更しても良いか。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

もし80代のほうを載せるとしたら、数値変化Bのほうに「*母数が少な

いから」等の注意書きとしないと、大幅に改善しているのになぜかと疑問に思われるかもしれない。次に、運動はいかがか。

(横浜市歯科医師会 堀元委員)

モニタリング項目で、老人クラブ加入率が減って、地域の活動が減ってきているとなると、都市型の問題を課題として評価に記載しては。いずれ閉じこもりのリスクがある等。

(事務局)

老人クラブの加入は少ないが、横浜は趣味の会やテーマ型の活動は盛んと言われている。老人クラブが今の時代にマッチしないという人たちも多い。活動問わず、社会参加ということを入れてはどうか。

(神奈川県栄養士会 長谷川委員)

ケアプラザでの元気づくりステーション等、運動グループが増えている。そうした数も入るといい。

(事務局)

市民意識調査では、地域とのつながり等は高齢者ではあまり落ちていない。若い世代が地域との関わりが下がっているとの結果が出ている。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

世代を通してみて、ご意見いかがか。

(横浜市薬剤師会 高堂先生)

稔りの世代も休養が困難になっているということか。

(事務局)

休養については、働き・子育て世代と稔りの世代が共通項目になっている。睡眠を年代別でみるには、市民意識調査でわかる。若い人のほうが睡眠は短い結果になっている。

(横浜市薬剤師会 高堂先生)

高齢者に眠れない、すぐに起きてしまう人が多く、その辺りが健康にも影響する。すぐ薬やサプリメントに薬に頼りやすい。とても増えている印象なので、モニタリングの方法が何かあると面白い。

(神奈川産業保健総合支援センター 渡辺委員)

働き・子育て世代の部分に、飲酒が何も書いていないが。

(事務局)

算出が遅れており、昨日やっとデータが出そろった状況。大きな変化はないが、少し補記したいと思っている。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

骨子案の5ページ目にも反映させたい。女性がやや増えているか。

(事務局)

県単位でも女性が増えていたので、もしかしたら全体的に増えているのかもしれない。

(神奈川産業保健総合支援センター 渡辺委員)

3合以上が多量飲酒で、これはアルコール60g以上となる。飲酒運転の人はこういった多量飲酒の人が多。飲酒運転の予防の観点からも、取組が必要かと。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

続いて、今後の方向性についてどうか。取組の方向性として、糖尿病の重症化予防がいきなり出てきた印象。行動目標の評価とどうつながるか。栄養のバランスや、運動がどうか行動目標とつながる書き方ができるといい。

(事務局)

言葉が急に出てきているので、出し方を工夫したい。

(横浜市歯科医師会 堀元委員)

世代ごとの大きな柱がある。育ち・学びの世代は啓発や健康教育が柱になるのでは。働き・子育て世代は生活の中を変えていく必要がある。稔りの世代は機能低下の予防等。世代による特性に合わせたまとめができると良い。

(横浜市医師会 渡辺会長)

アプローチが難しい層とは何か？一般の方はわかりにくいのでは。

(事務局)

健康に興味・関心の無い層にも、と書き換えたい。ライフステージごとに課題があるが、世代を問わないもの、たとえばタバコ、睡眠等の分野別のものも入れたいと思っていたが。

(神奈川産業保健総合支援センター 渡辺委員)

	<p>取組の方向性の1、2番目は分かる。働き・子育て世代は会社に協力してもらえないとなかなか改善が難しいし、育ち・学びの世代は子どもに教育することで親に伝わっていくので良いと思うが、3番目がよく分かりにくい。</p> <p>(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長) 確かに休養はいつそうの取組が必要だが、あれもこれもになってしまうか。</p> <p>(事務局) 計画の後半5年間でどうするか市民の皆さんにご理解いただく時に、ある程度方向性を出していく必要がある。特に遅れている部分をやるという考え方もあるが。</p> <p>(横浜市医師会 渡辺会長) 休養・睡眠が少ないのはイベントが多いことに関係あるか？何もイベントがなければ、今日は休もうかなとなるが。</p> <p>(事務局) 休養は啓発をあまりしてきていない。休み方、気分転換の仕方等、ムーブメント的に啓発できたらと思う。</p> <p>(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長) ストレスチェックと合わせてやれるといい。</p> <p>(横浜市医師会 渡辺会長) いい休養の取り方として広めていくとか。</p> <p>(横浜市歯科医師会 堀元委員) 今回には入っていないが、20歳代、大学生等の若い人も今後生活習慣病予備軍となり得る。次の計画でここの辺りを入れ込む検討も必要かと。</p> <p>(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長) では資料3、4については、ここで検討終了としたい。</p> <p>(横浜市医師会 渡辺会長) すべての議事終了したため、特にご意見なければ、ここで終了としたい。</p>
<p>議題</p>	<p>3 (3) 今後のスケジュールについて<資料5> 資料5について事務局より説明</p>
<p>連絡事項</p>	<p>次回の部会は平成29年11月頃を予定</p>